

「あまみずグリーンインフラ検討委員会」（第4回）議事要旨

■日時：令和7年10月30日（木） 16時00分～18時00分

■場所：東京都庁第二本庁舎10階 一般会議室213

検討委員会での主な意見

○実装拡大に向けた取組状況について

- ・区市とのGI勉強会について、現在の参加自治体に限定することなく、GIの取組みを拡大できるよう参加自治体を増やし、他自治体への情報共有を図る取組みを引継ぎ行って欲しい。

○技術面の課題解決への検討状況

（雨水貯留浸透効果の暫定評価）

- ・技術指針にGIの雨水貯留浸透効果の評価が記載されることは、暫定としても基礎自治体にとってGIを推進する上で重要。
- ・GIの雨水貯留浸透効果について、既往技術指針の浸透柵等の基本式を準用する方向性に異論はない。
- ・技術指針改訂版の構成内容について了承。GIにおける適正な配置や効果の計算式等に加えて、敷地における対策量の考え方を盛り込めると良い。
- ・技術指針という名称は、初めてGIを取り組む住民等にとって、非常に硬い印象を受ける。そのため、GIも含まれていることが分かる名称等で調整する等、一般の住民等へのアプローチの方策を検討すべき。
- ・GIの雨水貯留浸透効果について、国や基礎自治体の取組みにおいて確認されたデータを幅広く継続的に収集し比較検討していくことが重要。
- ・GIの雨水貯留浸透効果については、浸透分に加えて貯留分も合わせて示し、定点観測による水位変化とカメラ観測で分かった実際の貯留浸透状況を発信していくべき。
- ・東部低地における飽和透水係数は、浸透量が低めに設定される安全側の指標値となることについて理解するが、GI推進にマイナスのインセンティブに繋がらないように、貯留量を合わせた貯留浸透として効果を示していくべき。
- ・設計水頭における植栽基盤層の取り扱い、層厚や浸透係数が種類により異なるため、通常は設計水頭として考慮しないこととする。なお、植栽基盤層が第三者機関での認定品であれば考慮することが可能な方向で良い。

（ケーススタディ及び流域対策の効果）

- ・類型別のケーススタディを実施した上で、その実施を個々の施設（点）で実施していくのではなく、地域・地区（面）での実施がすることが、流域対策として必要なだと伝わるようなアプローチを検討すること。
- ・GI導入による浸水低減効果等の見える化は、一般の方にも取組みが理解されやすいため、GIポテンシャルをマップ等で表示出来ないかについて、今後検討して欲しい。

○政策面の課題解決への検討状況

（経済的な波及効果の考え方の整理）

- ・今回の波及効果の考え方は、「経済的」だけを対象としてないため、「社会・経済的」にしたほうが良い。

- ・ ロジックモデルについて、都が目指す「しみこませるまちづくり」へのインパクトとして全体の大枠は理解できた。なお、主体が行政、民間、地域住民と多岐に渡るため、主体毎の整理に紐づけていくと良い。
- ・ GIの多面的効果の一つとして、地域住民が維持管理に携わることで関係性を深めるコミュニティガーデンとしての機能、さらには自発的に自然と触れ合う効果も期待されるため、含めて検討されたい。

(人流・アンケート調査)

- ・ アンケート調査をGIの事業協力者側の社員にも実施してみると良い。
- ・ アンケート調査について、GI認知に関する事項に加えて、自発的な意欲を確認する項目があると良い。
- ・ 道路のウォークアブルにおける調査結果の事例では、街路樹等の気化熱で涼しく歩きやすい場所が選ばれ、人の滞留も高まる傾向が出ているものもあり、GIと親和性があると思うため、調査結果と突合されると良い。

(実装拡大に向けた関連制度の整理)

- ・ GIにおける関連制度の整理を進めていくことは非常に良い取組。
- ・ 開発に関する制度での雨水流出抑制と緑化に関する手続きが異なる件について、区市とも連携して円滑な対応への方策を今後検討していくべき。

〔※ GI …… 雨水流出抑制に資するグリーンインフラ〕

以上